

# 愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

## 愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所 長	山岡傳一郎
医 師	若松 貴哉
非常勤	光藤 英彦
専攻医	土居 裕和
鍼灸部	村山 功(3月退職) 上郷 樹夫 玉井 弘文 山見 宝 真鍋 昭生
薬 局	赤崎 達子 山口 裕子
看護部	大下 由実
事 務	山本 靖子(9月退職) 高市加奈子(3月退職) 島矢 真里(10月配属)
研修鍼灸師	大宮由起子(鍼灸専攻研修生4年目) 谷村 依里(鍼灸専攻研修生3年目) 大塚 素子(鍼灸専攻研修生2年目) 小林 靖(鍼灸専攻研修生2年目) 田嶋 恵子(鍼灸専攻研修生2年目) 脇口 典子(鍼灸専攻研修生2年目) 下園 理奈(鍼灸研修生3月転出) 菅沼 泉(鍼灸研修生3月転出) 森 望(鍼灸研修生) 寺阪 嘉峰(鍼灸研修生) 茂原 研(鍼灸研修生) 松原 里美(鍼灸研修生) 山師 侑子(鍼灸研修生)

### 1. 研究所概要と診療状況

愛媛県立中央病院東洋医学研究所は1979年(昭和54年)開設以来、平成20年度に創立30周年を迎えることとなる。30周年を迎えるに当たり以下のような成果を所長山岡を中心として挙げている。

- 1) 公的医療機関の中で医師と鍼灸師による東洋医学的チーム医療の実践。
- 2) 慢性健康障害患者の包括的理解のための時系列分析法の運用と推進
- 3) 穴位主治症(ツボの臨床意義)を復元と整理作業。
- 4) 古代の四刺法(虚法・泄法・除法・実法)の復元。
- 5) 入院患者に対して、各科連携のもとで、漢方および鍼灸治療の実施。

例えば、Baby Friendly Hospital における乳汁分泌促進のための東洋医学的援助、吃逆など現代医療を補完する漢方薬の運用。

なお、東洋医学研究所医師は総合診療部を兼任し、総合診療部外来・入院、へきち医療支援、2次3次救急診療、臨床研修医指導にも当たる。当院では、平成25年度完成をめざす新病院建て替えが進行している。新病院では、総合診療部と東洋医学研究所の関係は、以下のように設置される予定である。東洋医学診療科においては、西洋医学を補完する代替医療の核として東洋医学診療を行い漢方外来を実施するとともに、東洋医学的治療を鍼灸室で実施する。総合診療部に総合診療科と東洋医学診療科を設置する。総合診療科において一般内科診療及び専門診療分野のスクリーニングを実施すると共に、下記の専門外来を実施する。

### 総合診療部の役割

東洋医学診療科	漢方外来、鍼灸室
総合診療科	女性専用外来、不明熱外来、予防外来、心と身体の外来、セカンドオピニオン外来

なお、光藤は、非常勤医師として、研修鍼灸師の教育指導と鍼灸技術再開発分野を担当している。愛媛県においては、6県立病院が5病院に縮小され、一部の病院は公設民営化が進みつつある。このような施設内での東洋医学運営ニーズがあり、今後は公設民営化された病院での鍼灸室運営を計画している。地域社会構築の一助として東洋医学活用につながる動きとして期待している。

以下に、2007年度(1月～12月)の業績と活動内容を報告する。

### 東洋医学研究所における診療について

私共の研究所は開所以来一貫して灸療主体の診療を、また1988年以後は時系列ケアシステムに基づく診療を続けてきた。過去20年は少しずつではあるが徐々に受診者数も増加傾向を続けていたが、ここ数年の受診者数は年間延べ18000人前後、新患者数も600人前後と横這い状態が続いている。現在、医師2名をスーパーバイザーとするオーディット体制のもと、医師と鍼灸師(4名)がペアとなりそれぞれ漢方担当・鍼灸担当として2人担当制で診療に当たっている。また、薬剤師2名の診

療スタッフがそれぞれの見地、立場からチーム医療としての QOL 志向の統合医療を支えている。また「お灸文化」を 21 世紀以降へ残し発展させるための土台として、ボランティア施灸コーナーの開設や、地域社会における灸療ボランティアの支援を図る教室(初級・中級・上級)を開催している。

#### 東洋医学研修事業について

東洋医学に関する研修事業は、本来的には、医師、鍼灸師、薬剤師、看護部門においてそれぞれ必要性があると考えられる。私共のところでは、医師と鍼灸部門及び一般部門での研修が始まっているが、将来的には上記部門のすべての研修事業を試みる予定である。

医師部門では、平成 5 年度より東洋医学専攻研修医制度を設け、すでに専門的な臨床経験を積んだ専攻医が、毎年 1 名ずつ統合医学としての東洋医術(鍼灸・湯液両方)の研修を行っている。将来東洋医学を専攻することを目的として全科的なローテイト研修を始めた新卒研修医が育ちつつある。また将来的には全国公募の研修医制度を実施することが期待されている。今年度から東洋医学専攻医の募集をインターネットより行っている。

(<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/H19kensyuuiannai/29touyouigaku/touyouigaku.htm>)

鍼灸部門では、平成 9 年 4 月より鍼灸技術研修プログラムを開始した。この研修は、主に次の 5 つを目的としている。

- (1) 高齢社会における『お灸によるケア』の指導者としての技量の養成
- (2) 全人的病人把握法としての問診法(時系列分析法)のマスター
- (3) 鍼灸・漢方を含む東洋医学全般の学習
- (4) 現代医学の基礎学習と実施研修
- (5) 現代チーム医療の中でのメディカルスタッフの一員としての臨床的鍼灸実践

今年で 11 年目を迎えた事業であるが、今までに 20 名の研修鍼灸師が研修を終え社会に飛び立っている。平成 19 年度は全国各地から 5 名の研修生を迎え、研修担当山見を中心に、11 名の研修生が日々臨床実習と多方面の学習に日々励んでいる。また西海町国保健康づくり推進事業として、平成 8 年度から 5 年間、国(厚生省)と町(西海町)の協力によって実施された灸療普及技術支援活動で協力を得た福浦診療所の大川医師のもとで、より実践に即した短期臨床研修も計画している。研修生はこれまでは関西鍼灸短期大学(現：鍼灸大学)や明治鍼灸大学の卒業生が主であったが、平成 12 年度から専門学校卒業生も対象とした体制を取っている。平成 20 年度も若干名の研修生を受

け入れる予定である。

#### 灸療ボランティア活動について

東洋医学研究所は開所以来、一貫して灸療を中心とした診療を続けてきた。四国地方は昔からお灸が盛んな土地柄で、県民にもなじみ深い療法として知られている。しかし近年、核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの家庭が増え、自宅で背中にお灸のできない人が目立ち始め、研究所の診療システムになじまない人が多く見かけられるようになった。そこで、背部施灸のできない人たちに灸療の良さを理解してもらい、その普及と鍼灸師の研修を兼ねる目的で、平成 13 年 3 月より、スタッフ鍼灸師の指導下での研修鍼灸師による施灸ボランティアサービスの提供を以下の要領で開始した。

- (1) 対象者は東医研通院患者とし、通常の診療日以外に実施する(通常の再診と区別するため)。
- (2) 施灸ボランティア活動は午後のみとし、研修鍼灸師が担当する。
- (3) 施灸は背部施灸を中心とし、できるだけ自己施灸・家族施灸へ指導・誘導する。

2001 年(平成 13 年)3 月から開始した活動であるが、初年度は延利用者総数 317 名、2002 年度では、延 668 名、月平均 56 名、2003 年度では、延 1751 名、月平均 146 名にのぼった。2004 年度は延 2643 名、月平均 220 名、2005 年度も延 2857 名、月平均 240 名、2006 年度は延 3726 名、月平均 311 名、今年度は延 4386 名となり、月平均 365 名となっている。最近では施灸人員を確保するのが難しい状況になってきた。本来は自己施灸や家族施灸の指導を行っていきたいが、なかなかうまくいっていないのが現状である。しかし東洋医学研究所としては、「お灸文化」の存続・継承をはかり今後も引き続き行っていくつもりである。

#### 灸療ボランティア支援教室の開催について

前項の「灸療ボランティア活動」に対して希望者が増加してきており、職員や研修生だけでは限界にきていて、家庭でお灸をすえたいという人を支援する「灸療ボランティア支援教室」を平成 15 年 4 月(毎年 4 回)から開始した。これは平成 13 年 3 月より所内にて開始した施灸ボランティア活動の延長線上と考え、地域社会において標準的な灸療の教養を身につけたボランティアの活動を支援することを目的とした教室である。対象者は、えひめ東医研の患者のみならず、県立中央病院の患者・職員とその家族を中心に施灸ボランティアに関心のある人とした。講座内容としては 初級、中級、上級の 3 つに分かれており、初年度(平

成 15 年)は の初級入門講座を 4 回(4 月・7 月・10 月・1 月)実施した。内容として、健康灸のススメ・日常施灸の注意事項・標準的な施灸をするコツ・灸療の意義や適応症、その他灸療に関するノウハウなどを取り上げた。平成 16 年度からはの中級教養講座として、基本灸療学習コースの他に生薬学習コースも加えた講座内容で開始した(年 4 回)。H17 年度からは上級専門講座として領域別事例紹介(深谷伊三郎氏の事例より取り上げた)と東洋医学的診立てと時系列分析学習などの講義も開始し、優秀な施灸ボランティアの育成に力を注いでいる所である。この支援活動が地域社会における施灸ボランティアの拡大につながっていくことを期待したい。

#### 東洋医学啓蒙活動について

愛媛県内の各市町村だけでなく他の府県からの東洋医学全般の講演・健康まつりなどの実施依頼に対して、灸療による健康作りや講演会の開催及び灸療実技などを中心として、東洋医学の啓蒙活動に努めてきた。愛媛新聞カルチャースクールや、単発的な講演会などは以前からあったが、高齢化社会を迎えて東洋医学の需要が増大していくと予想され、これからは定期的な継続事業として力を注ぐつもりである。東洋医学にとって鍼灸と漢方が車の両輪に例えられるように、鍼灸だけでなく漢方薬の啓蒙にも力を注いでいきたい。

#### 院内アメティーとしての『東洋医学体験コーナー』の設置

毎月、1 回、東洋医学の体験ができるコーナーとして設けられた。院内 LAN で職員に周知し、希望者に鍼灸治療を行っており、評判は上々である。病院職員のアメニティーの場、職員の健康増進の場、および東洋医学に親しんで頂く場として運営している。東医研スタッフのボランティア精神育成と研修鍼灸師の研修の場としても役立っている。

#### 東洋医学研究所研修交流会の開催

東洋医学研究所が設立されて四半世紀が過ぎ、優秀なスタッフ・研修の先生を沢山輩出することが出来ている。そこで次世代のえひめ東医研の目標として「研修から研究へ」を掲げ、東医研 0B、また初代えひめ東医研所長：光藤が玉川病院で指導したスタッフとも親交を深め、今後の東医研発展のための研修交流会を 8 月 3 日(金曜日)、山田勝弘(全日本鍼灸学会東京地方会会長・山田鍼灸治療院院長)先生を迎え開催した。今後も年 2 回を目標に開催する予定である。

#### へき地医療支援に鍼灸師派遣

愛媛県でも医師不足は深刻である。特に地方の医師不足状況は医療崩壊が危惧される。そこで、私共の研究所で短期研修を受けた整形外科医(自治医大卒 10 年目)が地域に派遣された際に、その医療活動を支援するために鍼灸師を毎月 2-4 日派遣するようにした。住民には非常に好評であり、今後も継続拡大していく予定である。

#### 2. シンポジウム、学会報告、講演会など

##### シンポジウム

- 1) 若松貴哉：シンポジウム「地域医療への東洋医学の可能性」地域医療への関わり、第 58 回日本東洋医学会学術総会・広島国際会議場・2007,6,17。
- 2) 山岡傳一郎：「KJ 発想法からみた証について」シンポジウム「『証』のさらなる展開を目指して」第 36 回日本東洋医学会中四国支部総会鳥取大会、米子ワシントンプラザホテル、2007.11.19

##### 特別講演・教育講演

- 1) 山岡傳一郎：漢方薬はどう使うのか～時系列分析からの検討～第 2 回愛媛東洋医学カンファレンス(COME)。愛媛大学医学部。2007.9.10
- 2) 山岡傳一郎：統合医療の必要性～東洋医学と総合診療～。沖縄中医学研究会。2007.9.15
- 3) 山岡傳一郎：総合診療における漢方薬の使い方。第 3 回現代漢方講座。広島国際大学。2007.10.6

##### 一般講演

- 1) 真鍋昭生：刺絡鍼法について。日本刺絡学会：認定刺絡講習会・大阪市森ノ宮・森ノ宮医療学園。2007,1,21
- 2) 山見宝，大宮由起子：えひめ東医研の刺絡(理論と実技)。日本刺絡学会：認定刺絡講習会・大阪市森ノ宮・森ノ宮医療学園。2007,2
- 3) 真鍋昭生：灸研修-正しいお灸のすえ方-。日本東洋医学会愛媛県部会・松山市成人病センター。2007,3,10
- 4) 山見宝：-正しい鍼の打ち方-。日本東洋医学会愛媛県部会・松山市成人病センター。2007,3,10
- 5) 玉井弘文，若松貴哉：姑の脳血管障害(認知症)の介護負担に関連にして視力障害(網膜静脈文枝閉塞)を発症した 53 才女性。第 58 回日本東洋医学会学術総会・広島国際会議場・2007,6,17
- 6) 若松貴哉，山岡傳一郎：乳汁分泌不全に対する鍼灸治療。第 58 回日本東洋医学会学術総

- 会・広島国際会議場・2007,6,17。
- 7) 上郷樹夫, 山岡傳一郎:急性期の円形脱毛症を主病症としている29才男性の1事例。第58回日本東洋医学会学術総会・広島国際会議場・2007,6,17
  - 8) 真鍋昭生, 森望:慢性腰痛に有効であった細絡刺絡術について。第16回日本刺絡学会学術総会・高知共済会館・2007,6,24
  - 9) 小林靖, 真鍋昭生:幼少期からの易感冒と、現在肺気腫を指摘されている80才男性。刺絡と灸のGood・Combinationの1症例。第16回日本刺絡学会学術総会・高知共済会館・2007,6,24
  - 10) 谷村衣里, 山見宝:硬結刺絡が有効であったと考えられる64才女性の1事例。第16回日本刺絡学会・高知共済会館・2007,6,24
  - 11) 田嶋恵子, 大宮由起子, 山見宝, 山岡傳一郎:膝痛・下肢の痺れを主訴とする瘀血証の1症例。第16回日本刺絡学会・高知共済会館・2007,6,24
  - 12) 山岡傳一郎:刺絡についての安全性(光)と危険性(影)。第16回日本刺絡学会・高知共済会館・2007,6,24
  - 13) 真鍋昭生:東洋医学と健康「講演」。愛媛県高齢者大学校、愛媛県民文化会館別館、松山市、2006,9,5
  - 14) 大塚素子, 松原里美, 上郷樹夫:灸療・刺絡療法によりQOLの向上に寄与したと思われる56才女性の1事例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 15) 玉井弘文, 茂原研, 若松貴哉:閉経期の手術(卵巣嚢腫)後に発症した上半身ののぼせ・ほてり・下半身の冷えを訴える74才女性の1事例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 16) 松原里美, 大塚素子, 上郷樹夫:急性期の円形脱毛症を主病症としている29才男性の1事例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 17) 森望, 真鍋昭生:慢性腰痛に有効であった細絡刺絡術について。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 18) 山師侑子, 田嶋恵子, 山見宝, 光藤英彦:東医研における漢方一貫堂を考える。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 19) 田嶋恵子, 大宮由起子, 山見宝:膝痛・下肢の痺れを主訴とする瘀血証の1症例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 20) 大宮由起子, 山見宝:井穴刺絡事始め。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 21) 赤崎達子, 山口祐子:東医研の漢方を試飲しましょう。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 22) 谷村衣里, 山見宝:硬結刺絡が有効であったと考えられる64才女性の1事例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 23) 寺阪嘉峰, 脇口典子, 山見宝, 若松貴哉:井穴刺絡が嚙下痛・喉の引っかかり感・かすれ声に有効であった1症例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 24) 小林靖, 森望, 真鍋昭生, 光藤英彦:幼少期からの易感冒と、現在肺気腫と指摘されている80才男性。刺絡と灸のGood・Combinationの1症例。第37回日本東洋医学会中四国支部愛媛県部会・松山市共同参画推進センター・2007,9,9
  - 25) 若松貴哉:乳汁分泌不足患者に対する鍼灸治療。第46回全国自治体病院学会・札幌コンベンションセンター・2007,9,27
  - 26) 上郷樹夫, 山岡傳一郎:急性期の円形脱毛症を主病症としている29才男性の1事例。日本東洋医学会第36回中四国支部総会鳥取大会・2007,11,18
  - 27) 田嶋恵子, 山見宝, 山岡傳一郎:膈俞穴の主治について-文献及び臨床的検討-。日本鍼灸史学会・京都・京都アスニー・2007,11,25
  - 28) 山岡傳一郎, 山見宝, 光藤英彦:三陰交の位置について。日本鍼灸史学会・京都・京都アスニー・2007,11,25